

Ⅱ【学生】「大学生基礎力レポート調査」結果報告

結果まとめ

くらしき作陽大学（大学）及び作陽音楽短期大学（短大）の2017年度、2018年度、2019年度入学生を対象に行った「基礎力調査（大学生基礎力レポート）Ⅰ」と、2017年度入学生（大学3年次）と2018年度入学生（短大2年次）を対象に2019年9月に行った「基礎力調査（同）Ⅱ」（株式会社 ベネッセ i-キャリア」実施）における「(1)協調的問題解決力の能力的評価」、「(2)協調的問題解決力の行動的評価」、「(3)学びへの取り組み」、「(4)学びへの意識」及び「(5)進路に対する意識・行動」という5項目についての調査結果を以下に述べる（その他については「全体結果報告書」参照）。

「(1)協調的問題解決力の能力的評価」については、2019年の「基礎力調査Ⅰ」と2017年・2018年の「基礎力調査Ⅱ」との経年比較から、「議論の明確化」と「推論の土台の検討」という能力に関しては、学内のほぼ全部局の学生の正答率が上昇していることが明らかになった。しかし、「推論」に関する学生の正答率は、いずれの学部においても下降していた。一方、2017年度、2018年度及び2019年度入学生の「基礎力調査Ⅰ」を用いて、各部局を比較すると、「議論の明確化」という能力に関しては、音楽学部と子ども教育学部の学生の正答率が2017年度、2018年度、2019年度入学生の順に上昇していた。同様に、「推論の土台の検討」という能力においても子ども教育学部の学生の正答率は入学年度の順に上昇した。

「(2)協調的問題解決力の行動的評価」については、音楽学部の入学時の学生において他の部局の入学生よりも高い傾向がみられた。経年変化についてみると、音楽学部、食文化学部及び子ども教育学部では1年次生よりも3年次生において、「自己管理」、「対人関係」及び「計画実行」の3行動に関する達成率が低下していた。次に、本学学生の協調的問題解決力に基づく行動の達成率を2017年度、2018年度及び2019年度の「基礎力調査Ⅰ」により比較したところ、部局間で大きな差異はなかった。また、入学年度の違いによる著しい変化はみられなかった。

「(3)学びへの取り組み」に関する本学学生の達成率は、2017年から2019年までの経年変化において差異がみられた。すなわち、10項目の評価基準のうち、「必要な情報を図書館で調べる」という項目は、すべての部局において達成率が上昇していた。一方で、「授業の内容でわからないことは先生に質問や相談に行く」という項目の達成率は、すべての部局で下降していた。また、学びの取り組みに対する10項目の評価基準を2017年度、2018年度及び2019年度の「基礎力調査Ⅰ」により比較したところ、上記の10項目のすべてに関して、短大の2018年度入学生の達成率が高かった。その他の部局間では入学年度の違いによる達成率の明らかな差異はみられなかった。

「(4)学びへの意識」については、「基礎力調査Ⅰ（1年次）」と「基礎力調査Ⅱ（3年次）」とで経年比較すると、すべての評価基準項目に関して下降していた。また、「基礎力調査Ⅱ」に基づいて部局間で比較すると、いずれの項目においても食文化学部学生の達成率が低く、他部局学生の達成率よりも5ポイント以上低かった。以上の2点に関しては留意する必要がある。一方、学びへの意識に対する5項目の達成率を2017年度、2018年度及び2019年度の「基礎力調査Ⅰ」により比較したところ、5項目の評価基準すべてに関して、短大の2018年度入学生の達成率が高かった。その他の部局間では入学年度の違いによる達成率の明らかな差異はみられなかった。

「(5)進路に対する意識・行動」については、経年比較すると、「自己理解」、「社会理解」、「進路の明確化」に関しては下降しており、これらの総和として、「総合」においても下降していた。一方で、「進路実現に向けた行動」に関しては3年次において上昇傾向がみられた。また、短大学生の達成率はすべての項目において上昇していた。これは、調査対象の短大2年生がすでに就職活動に取り組んでいたことに起因すると思われる。

本学全体としては、正答率や達成率が学年進行に伴って下降しているケースが多くみられた。これは、学びへの意識や行動力が最も高いのが入学時であり、それらが時間の経過とともに低下していることを示唆している。入学後の学びへの意識・行動の向上に向けた対策が必要である。

1. 調査の概要

(1)基礎力調査 I

調査時期	調査対象				備考
	入学年	学年	所属	回答者数	
2017年4月11日	2017年	1	大学	315	「基礎力調査 I」1回目
			短大	59	
2018年4月6日	2018年	1	大学	322	
			短大	52	
2019年4月6日	2019年	1	大学	305	
			短大	45	

(2)基礎力調査 II

調査時期	調査対象				備考
	入学年	学年	所属	回答者数	
2019年9月2日	2017年	3	大学	266	「基礎力調査 II」1回目
2019年9月2日	2018年	2	短大	38	「基礎力調査 II」1回目

(3)掲載した集計（分析）結果について

「正課外学修成果把握：全学部、複数学年成果把握資料：2019.04 1年生、2019.09 3年生」とあるだけで、厳密に指示されていないため、昨年度の（これまでの）報告書にならって結果を示した（「**成果把握**」として掲載）。

また、2019年入学の1年生のデータについては、全国の集計結果が示されていないため、過去年度の1年生（2017年度入学生、2018年度入学生）との比較をした（「**年度比較（入学時点）**」として掲載）。

2. 調査結果

(1) 協調的問題解決力の能力的評価について（表 1.1、図 1.1—1~4）

成果把握

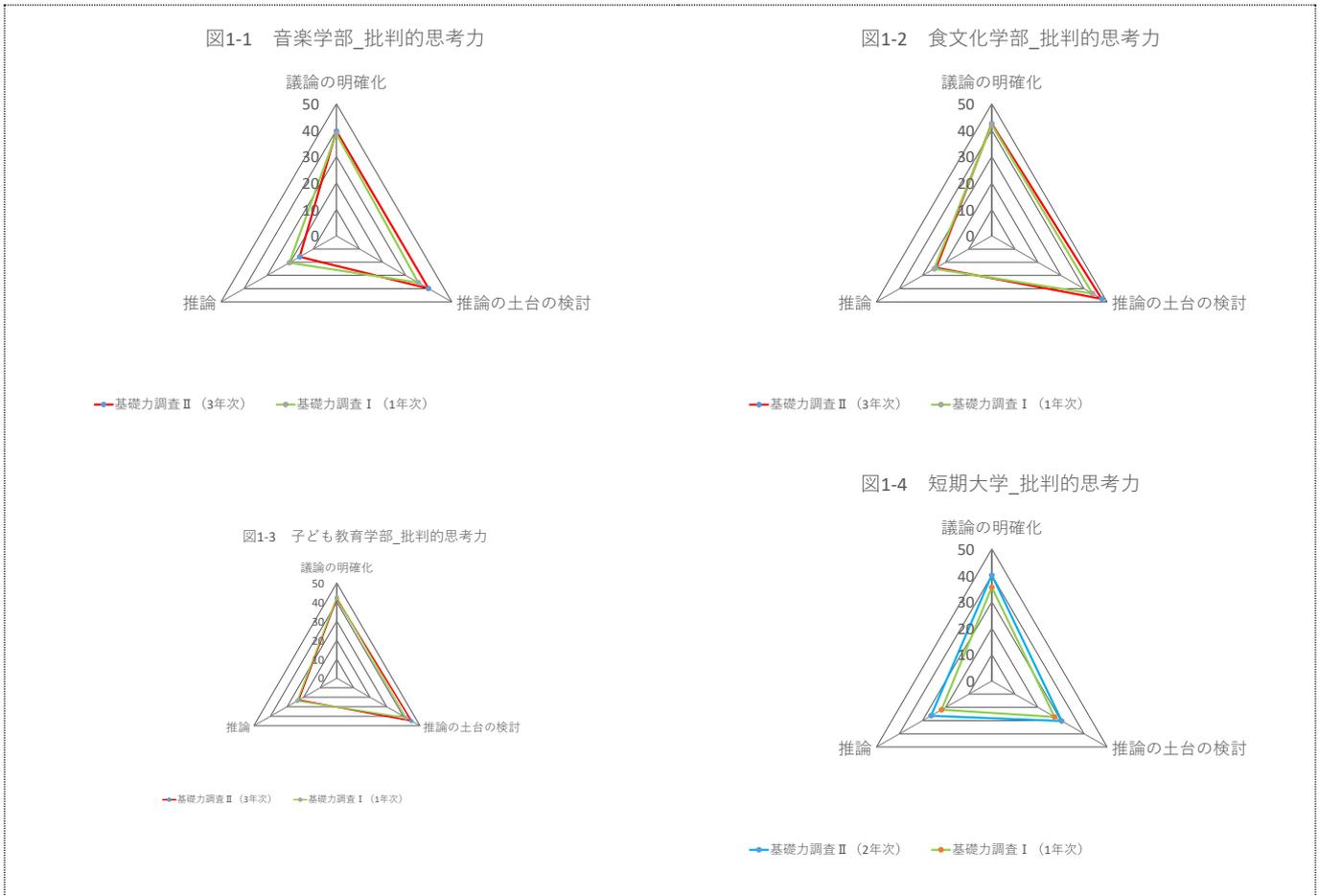
協調的問題解決力のうちの「議論の明確化」、「推論の土台の検討」、「推論」という3能力をそれぞれ評価する項目についての部局ごとの正答率を表 1.1 に、部局内での各項目に関する正答率を図 1.1（1~4）にリーダーチャートで示した。

表 1.1 協調的問題解決力の能力的評価（部局ごとの正答率）

		受検者数	議論の明確化	推論の土台の検討	推論
音楽学部	基礎力調査 II（3年次）	23	39.6	39.9	15.9
	基礎力調査 I（1年次）	31	38.7	35.5	20.4
食文化学部	基礎力調査 II（3年次）	130	42.5	47.7	24.1
	基礎力調査 I（1年次）	147	42.1	43.7	24.9
子ども教育学部	基礎力調査 II（3年次）	113	41.8	44.8	23
	基礎力調査 I（1年次）	137	42.5	41.5	23.8
短期大学	基礎力調査 II（2年次）	38	40.1	30.3	26.3
	基礎力調査 I（1年次）	52	35.5	27.2	21.8

（注）音楽学部、食文化学部、子ども教育学部については2017年度入学生を対象とした調査結果、短期大学については2018年度入学生を対象とした調査結果である。

図 1.1 協調的問題解決力の能力的評価（部局内での各項目に関する正答率を示したレーダーチャート）



2017 年の「基礎力調査 I」と 2019 年の「基礎力調査 II」を用いて各学部の結果を経年比較すると、「議論の明確化」と「推論の土台の検討」という能力に関しては、学内のほぼ全部局の学生の正答率が上昇していたことがわかる。特に「推論の土台の検討」に関する正答率は全部局において 3～4 ポイント以上上昇していた。しかし、「推論」に関しては、いずれの学部においても学生の正答率は下降していた。

一方、2017 年の「基礎力調査 I」と 2018 年の「基礎力調査 II」を比較した短大においては、「議論の明確化」、「推論の土台の検討」及び「推論」に関する正答率はいずれも上昇していた。

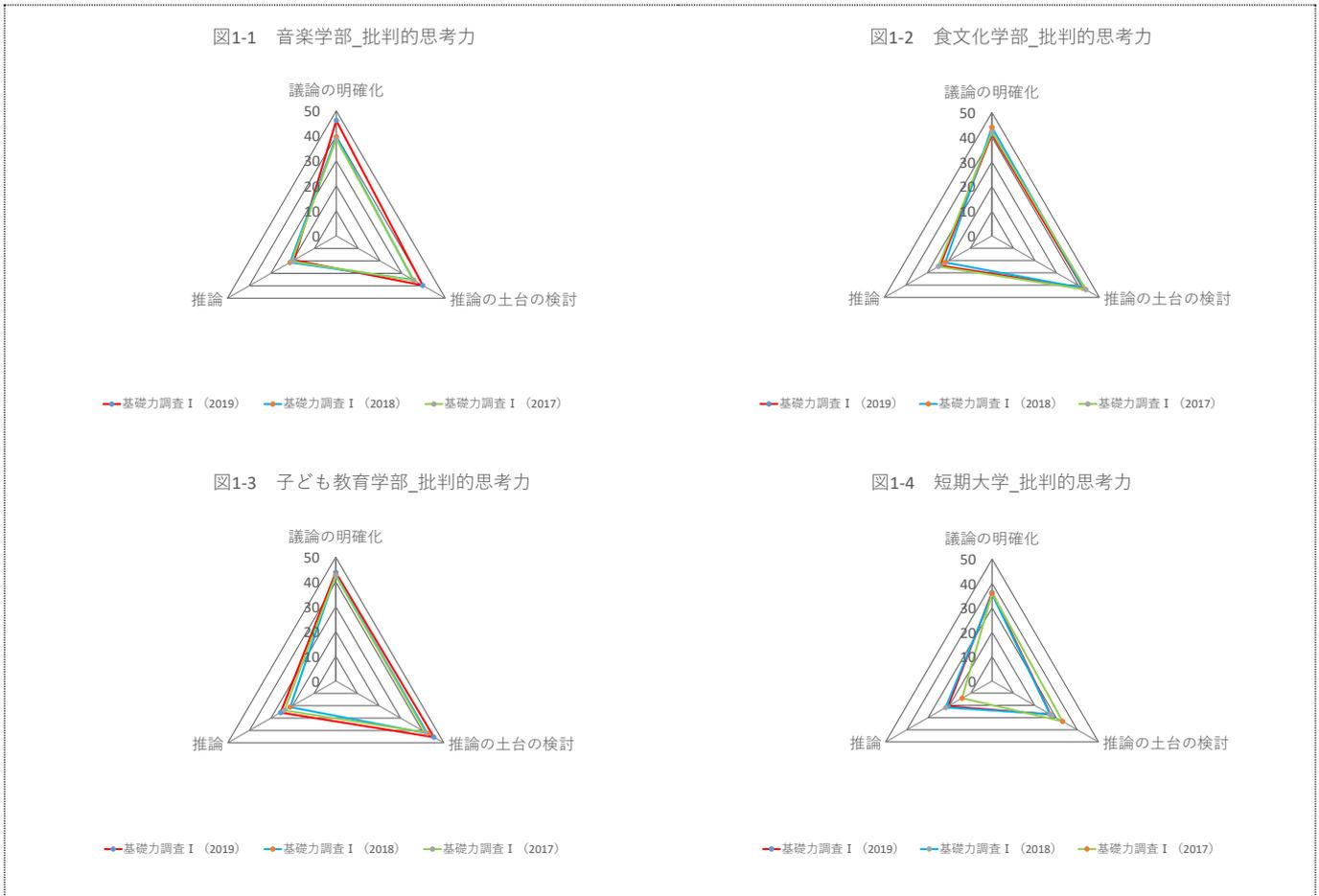
(2) 協調的問題解決力の能力的評価について (表 1.2、図 1.2—1~4) **年度比較 (入学時)**

協調的問題解決力のうちの「議論の明確化」、「推論の土台の検討」及び「推論」という 3 能力をそれぞれ評価する項目についての部局ごとの正答率と部局内での各項目に関する正答率を入学年度別に、それぞれ表 1.1 と図 1.1 (1~4) のレーダーチャートで示した。

表 1.2 協調的問題解決力の能力的評価（部局ごとの正答率）

入学時点比較 (2017~2019)		受検者数	議論の明確化	推論の土台の検討	推論
音楽学部	基礎力調査 I (2019)	48	46.1	39.6	19.4
	基礎力調査 I (2018)	44	39.6	35.2	21.2
	基礎力調査 I (2017)	31	38.7	35.5	20.4
食文化学部	基礎力調査 I (2019)	134	41.3	42.3	24.1
	基礎力調査 I (2018)	136	44	42.5	21.6
	基礎力調査 I (2017)	147	42.1	43.7	24.9
子ども教育学部	基礎力調査 I (2019)	123	43.8	45.4	25.5
	基礎力調査 I (2018)	142	42.8	42.4	21.1
	基礎力調査 I (2017)	137	42.5	41.5	23.8
短期大学	基礎力調査 I (2019)	45	36.3	27.4	20.7
	基礎力調査 I (2018)	52	35.5	27.2	21.8
	基礎力調査 I (2017)	59	36	33.1	14.1

図 1.2 協調的問題解決力の能力的評価（部局内での各項目に関する正答率を示したレーダーチャート）



2017年度、2018年度及び2019年度入学生の「基礎力調査Ⅰ」を用いて、各部局を比較すると、「議論の明確化」という能力に関しては、音楽学部と子ども教育学部の学生の正答率が2017年度、2018年度、2019年度入学生の順に上昇していた。同様に、「推論の土台の検討」という能力においても子ども教育学部の学生の正答率は入学年度の順に数値の上昇を示した。しかし、食文化学部や短期大学の入学生に対する正答率において、入学年度の違いによる明らかな特徴はみられなかった。

(3) 協調的問題解決力の行動的評価について (表 2.1、図 2.1—1~4) 成果把握

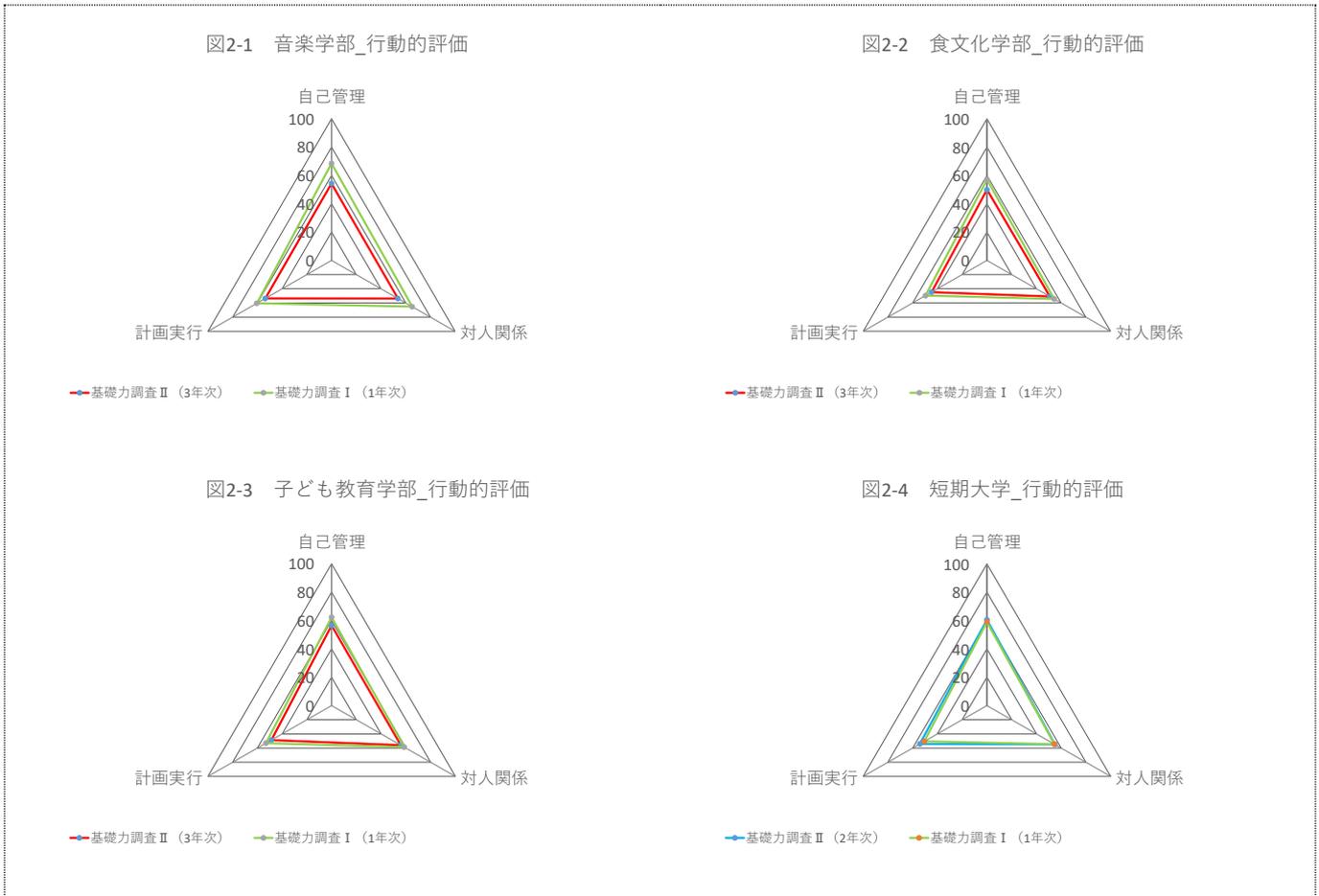
協調的問題解決力に基づく「自己管理」、「対人関係」及び「計画実行」という3行動をそれぞれ評価する項目についての部局ごとの達成率を表 2.1 に、また、部局内での各項目に関する達成率を図 2.1 (1~4) にレーダーチャートで示した。なお、達成率とは、全肯定を100%とする場合の回答者の肯定率を意味する。

表 2.1 協調的問題解決力の行動的評価（部局ごとの達成率）

		受検者数	自己管理	対人関係	計画実行
音楽学部	基礎力調査Ⅱ（3年次）	23	54.3	53.7	53.6
	基礎力調査Ⅰ（1年次）	31	68.5	65.3	60.4
食文化学部	基礎力調査Ⅱ（3年次）	130	50	50.9	44.8
	基礎力調査Ⅰ（1年次）	147	57.1	54.4	49.7
子ども教育学部	基礎力調査Ⅱ（3年次）	113	56.5	55.9	48.7
	基礎力調査Ⅰ（1年次）	137	62.3	58.7	53.1
短期大学	基礎力調査Ⅱ（2年次）	38	60.5	54.9	54.2
	基礎力調査Ⅰ（1年次）	52	58.9	54.5	50.6

(注) 音楽学部、食文化学部、子ども教育学部については2017年度入学生を対象とした調査結果、短期大学については2018年度入学生を対象とした調査結果である。

図 2.1 協調的問題解決力の行動的評価（部局内での各項目に関する達成率を示したレーダーチャート）



本学学生の協調的問題解決力に基づく行動の達成率に関しては、音楽学部学生の入学時において他の部局の学生の入学時よりも高い傾向がみられた。経年変化についてみると、音楽学部、食文化学部及び子ども教育学部の1年次生よりも3年次生において、「自己管理」、「対人関係」及び「計画実行」の3行動に関する達成率が低下していた。

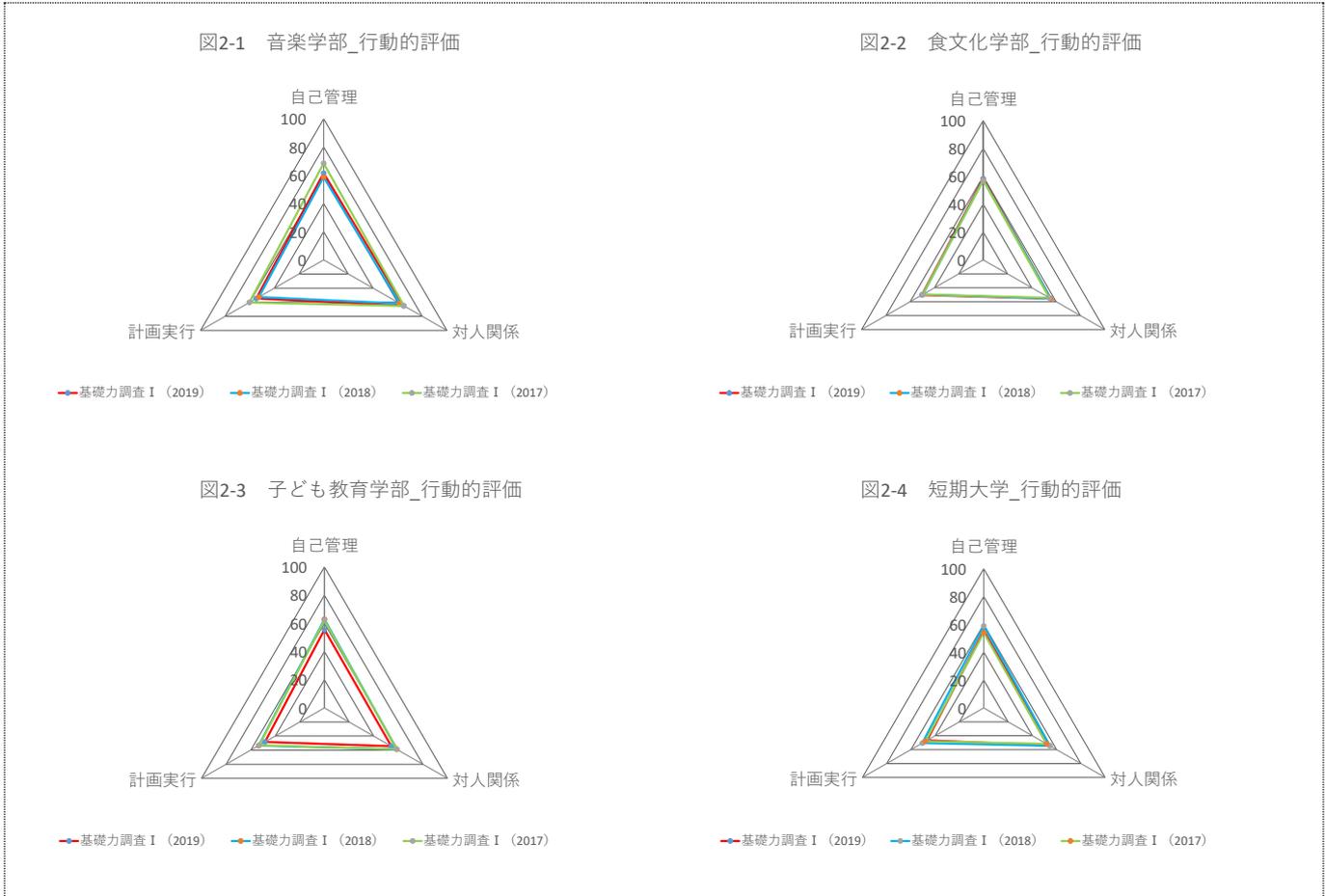
(4) 協調的問題解決力の行動的評価について (表 2.2、図 2.2—1~4) **年度比較 (入学時)**

協調的問題解決力に基づく「自己管理」、「対人関係」及び「計画実行」という3行動をそれぞれ評価する項目についての部局ごとの達成率と部局内での各項目に関する達成率を入学年度別に、それぞれ表 2.1 と図 2.1 (1~4) のレーダーチャートで示した。

表 2.2 協調的問題解決力の行動的評価 (部局ごとの達成率)

入学時点比較 (2017~2019)		受検者数	自己管理	対人関係	計画実行
音楽学部	基礎力調査 I (2019)	48	61.5	64.8	54.7
	基礎力調査 I (2018)	44	58.7	61.8	52.6
	基礎力調査 I (2017)	31	68.5	65.3	60.4
食文化学部	基礎力調査 I (2019)	134	58.4	55.5	50.3
	基礎力調査 I (2018)	136	57.5	55.6	49.6
	基礎力調査 I (2017)	147	57.1	54.4	49.7
子ども教育学部	基礎力調査 I (2019)	123	55.6	54.4	48.4
	基礎力調査 I (2018)	142	63	58.7	53.5
	基礎力調査 I (2017)	137	62.3	58.7	53.1
短期大学	基礎力調査 I (2019)	45	55.4	54.1	46.7
	基礎力調査 I (2018)	52	58.9	54.5	50.6
	基礎力調査 I (2017)	59	54	51.7	48.1

図 2.2 協調的問題解決力の行動的評価（部局内での各項目に関する達成率を示したレーダーチャート）



本学学生の協調的問題解決力に基づく行動の達成率を 2017 年度、2018 年度及び 2019 年度の「基礎力調査 I」により比較したところ、部局間に大きな差異はなかった。また、入学年度の違いによる著しい変化もみられなかった。

(5) 学びへの取り組みについて (表 3.1、図 3.1-1~4) **成果把握**

学びへの取り組みについては、「必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む」、「授業中、グループワークやディスカッションに積極的に参加する」、「板書や投影資料以外でも大事なことはノートにとる」、「授業の内容でわからないことは先生に質問や相談に行く」、「疑問に思ったことやわからないことはすぐに調べる」、「自分なりの意見や視点をもって学習する」、「必要な情報を図書館で調べる」、「授業で興味を持ったことについて自主的に学習する」、「授業と関わりのないことでも、興味を持ったことについて自主的に学習する」及び「自分なりに計画や目標を立てて学習する」という 10 項目に関する部局ごとの達成率を表 3.1 に、部局内での各項目に関する達成率を図 3.1 (1~4) にレーダーチャートで示した。

表 3.1 学びへの取り組み（部局ごとの達成率）

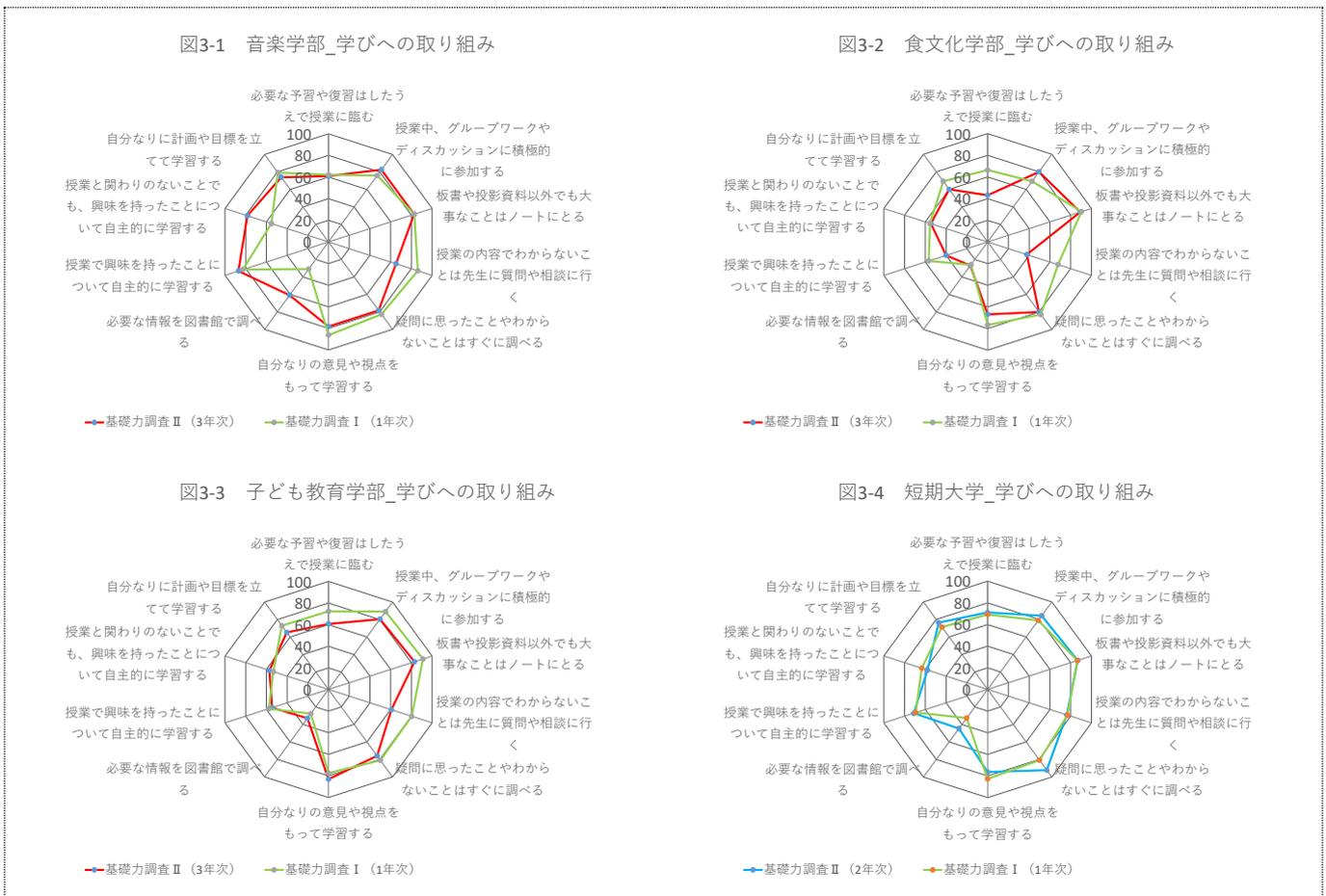
		受検者数	必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む	授業中、グループワークやディスカッションに積極的に参加する	板書や投影資料以外でも大事なことはノートにとる	授業の内容でわからないことは先生に質問や相談に行く	疑問に思ったことやわからないことはすぐに調べる
音楽学部	基礎力調査 II (3 年次)	23	60.9	82.6	82.6	65.2	78.3
	基礎力調査 I (1 年次)	31	62.1	75.9	82.8	86.2	82.8
食文化学部	基礎力調査 II (3 年次)	130	43.1	80	89.2	37.7	80
	基礎力調査 I (1 年次)	147	66.4	69.2	90.4	67.8	82.9

子ども教育学部	基礎力調査Ⅱ（3年次）	113	60.7	80.4	83	60.7	75.9
	基礎力調査Ⅰ（1年次）	137	72.3	89.1	91.2	80.3	81
短期大学	基礎力調査Ⅱ（2年次）	38	71.1	84.2	86.8	76.3	92.1
	基礎力調査Ⅰ（1年次）	52	69.2	78.8	86.5	76.9	80.8

		受験者数	自分なりの意見や視点をもって学習する	必要な情報を図書館で調べる	授業で興味を持ったことについて自主的に学習する	授業と関わりのないことでも、興味を持ったことについて自主的に学習する	自分なりに計画や目標を立てて学習する
音楽学部	基礎力調査Ⅱ（3年次）	23	78.3	60.9	87	78.3	73.9
	基礎力調査Ⅰ（1年次）	31	86.2	31	82.8	55.2	79.3
食文化学部	基礎力調査Ⅱ（3年次）	130	66.9	26.9	40	54.6	60
	基礎力調査Ⅰ（1年次）	147	76.7	26	56.8	55.5	69.2
子ども教育学部	基礎力調査Ⅱ（3年次）	113	83	33	54.5	57.1	65.2
	基礎力調査Ⅰ（1年次）	137	77.4	27.7	57.7	53.3	73
短期大学	基礎力調査Ⅱ（2年次）	38	76.3	44.7	71.1	57.9	76.3
	基礎力調査Ⅰ（1年次）	52	82.7	32.7	69.2	63.5	71.2

(注) 音楽学部、食文化学部、子ども教育学部については平成 29 (2017) 年度入学生を対象とした調査結果、短期大学については平成 30 (2018) 年度入学生を対象とした調査結果である。

図 3.1 学びへの取り組み（部局内での各項目に関する達成率を示したレーダーチャート）



本学学生の達成率は、2017年から2019年までの経年変化において差異がみられる。上記の10項目のうち、「必要な情報を図書館で調べる」という項目は、すべての部局において達成率が上昇していた。一方で、「授業の内容でわからないことは先生に質問や相談に行く」という項目の達成率は、すべての部局で下降していた。また、「授業中、グループワークやディスカッションに積極的に参加する」という項目は3部局で上昇傾向がみられ、「必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む」、「疑問に思ったことやわからないことはすぐに調べる」、「自分なりの意見や視点をもって学習する」及び「自分なりに計画や目標を立てて学習する」という項目は3部局で下降傾向がみられた。

(6) 学びへの取り組みについて (表3、図3-1~4) 年度比較 (入学時)

学びへの取り組みについては、「必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む」、「授業中、グループワークやディスカッションに積極的に参加する」、「板書や投影資料以外でも大事なことはノートにとる」、「授業の内容でわからないことは先生に質問や相談に行く」、「疑問に思ったことやわからないことはすぐに調べる」、「自分なりの意見や視点をもって学習する」、「必要な情報を図書館で調べる」、「授業で興味を持ったことについて自主的に学習する」、「授業と関わりのないことでも、興味を持ったことについて自主的に学習する」及び「自分なりに計画や目標を立てて学習する」という10項目に関する部局ごとの達成率と部局内での各項目に関する達成率を入学年度別に、それぞれ表3.2と図3.2(1~4)のレーダーチャートで示した。

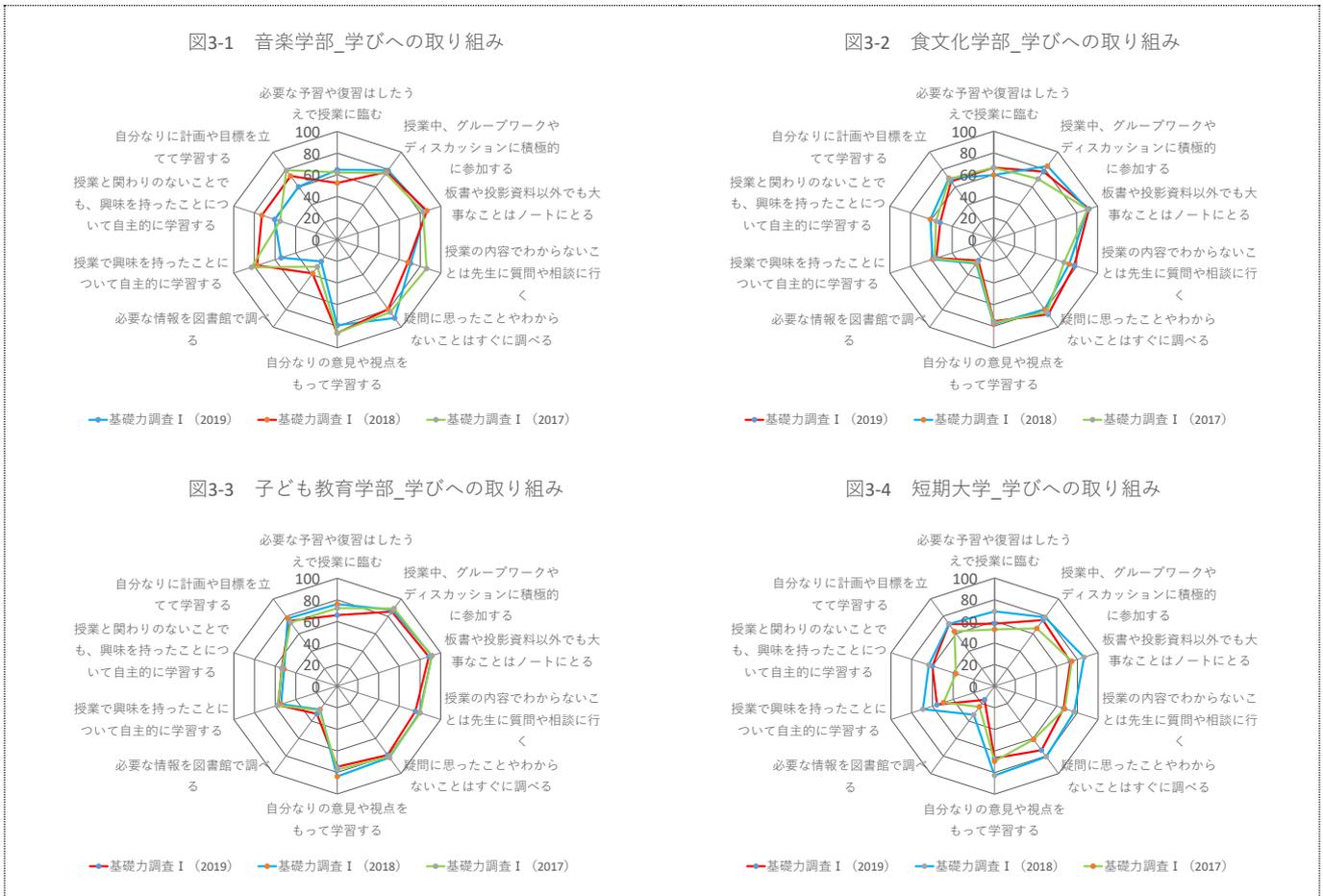
表3.2 学びへの取り組み (部局ごとの達成率)

入学時点比較 (2017~2019)		受検者数	必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む	授業中、グループワークやディスカッションに積極的に参加する	板書や投影資料以外でも大事なことはノートにとる	授業の内容でわからないことは先生に質問や相談に行く	疑問に思ったことやわからないことはすぐに調べる
音楽学部	基礎力調査 I (2019)	48	64.6	79.2	85.4	70.8	89.6
	基礎力調査 I (2018)	44	52.3	77.3	86.4	68.2	79.5
	基礎力調査 I (2017)	31	62.1	75.9	82.8	86.2	82.8
食文化学部	基礎力調査 I (2019)	134	66.4	77.6	91.8	77.6	85.1
	基礎力調査 I (2018)	136	59.6	83.8	90.4	72.8	79.4
	基礎力調査 I (2017)	147	66.4	69.2	90.4	67.8	82.9
子ども教育学部	基礎力調査 I (2019)	123	65.9	85.4	88.6	75.6	78.9
	基礎力調査 I (2018)	142	76.1	87.3	91.5	79.6	81.7
	基礎力調査 I (2017)	137	72.3	89.1	91.2	80.3	81
短期大学	基礎力調査 I (2019)	45	57.8	75.6	73.3	66.7	73.3
	基礎力調査 I (2018)	52	69.2	78.8	86.5	76.9	80.8
	基礎力調査 I (2017)	59	52.5	66.1	74.6	67.8	61

入学時点比較 (2017~2019)		受検者数	自分なりの意見や視点をもって学習する	必要な情報を図書館で調べる	授業で興味を持ったことについて自主的に学習する	授業と関わりのないことでも、興味を持ったことについて自主的に学習する	自分なりに計画や目標を立てて学習する
音楽学部	基礎力調査 I (2019)	48	84.5	89.9	78	73.3	85.9
	基礎力調査 I (2018)	44	85.8	87.7	78	72.7	85.8
	基礎力調査 I (2017)	31	85.9	91.7	72.7	77.6	85.9
食文化学部	基礎力調査 I (2019)	134	84.5	84.2	69.9	69.3	80.1
	基礎力調査 I (2018)	136	84.9	86.8	70.6	68.8	82.8
	基礎力調査 I (2017)	147	82.1	85.1	68	68.5	79
子ども教育学部	基礎力調査 I (2019)	123	86.1	86.4	72.3	69.6	80.8
	基礎力調査 I (2018)	142	86.3	86.4	72.1	70.1	82.4
	基礎力調査 I (2017)	137	86.3	87.7	72.4	72	83.7

短期大学	基礎力調査 I (2019)	45	80.9	82.8	71.9	71.3	81.7
	基礎力調査 I (2018)	52	85.9	87	74.8	72.3	82.9
	基礎力調査 I (2017)	59	81.8	82.8	69.1	68.8	79.4

図 3.2 学びへの取り組み (部局内での各項目に関する達成率を示したレーダーチャート)



本学学生の学びの取り組みに対する 10 項目の達成率を 2017 年度、2018 年度及び 2019 年度の「基礎力調査 I」により比較したところ、上記の 10 項目のすべてに関して、短期大学の 2018 年度入学生の達成率が高かった。その他の部局間では入学年度の違いによる達成率の明らかな差異はみられなかった。

(7) 学びへの意識について (表 4.1、図 4.1—1~4) **成果把握**

学びへの意識については、「大学で学ぶ価値」、「学びへのコミット」、「学びへの心構え」、「学びの見通し」及び「学び・経験への積極性」という 5 項目に関する部局ごとの達成率を表 4.1 に、部局内での各項目に関する達成率を図 4.1 (1~4) にレーダーチャートで示した。

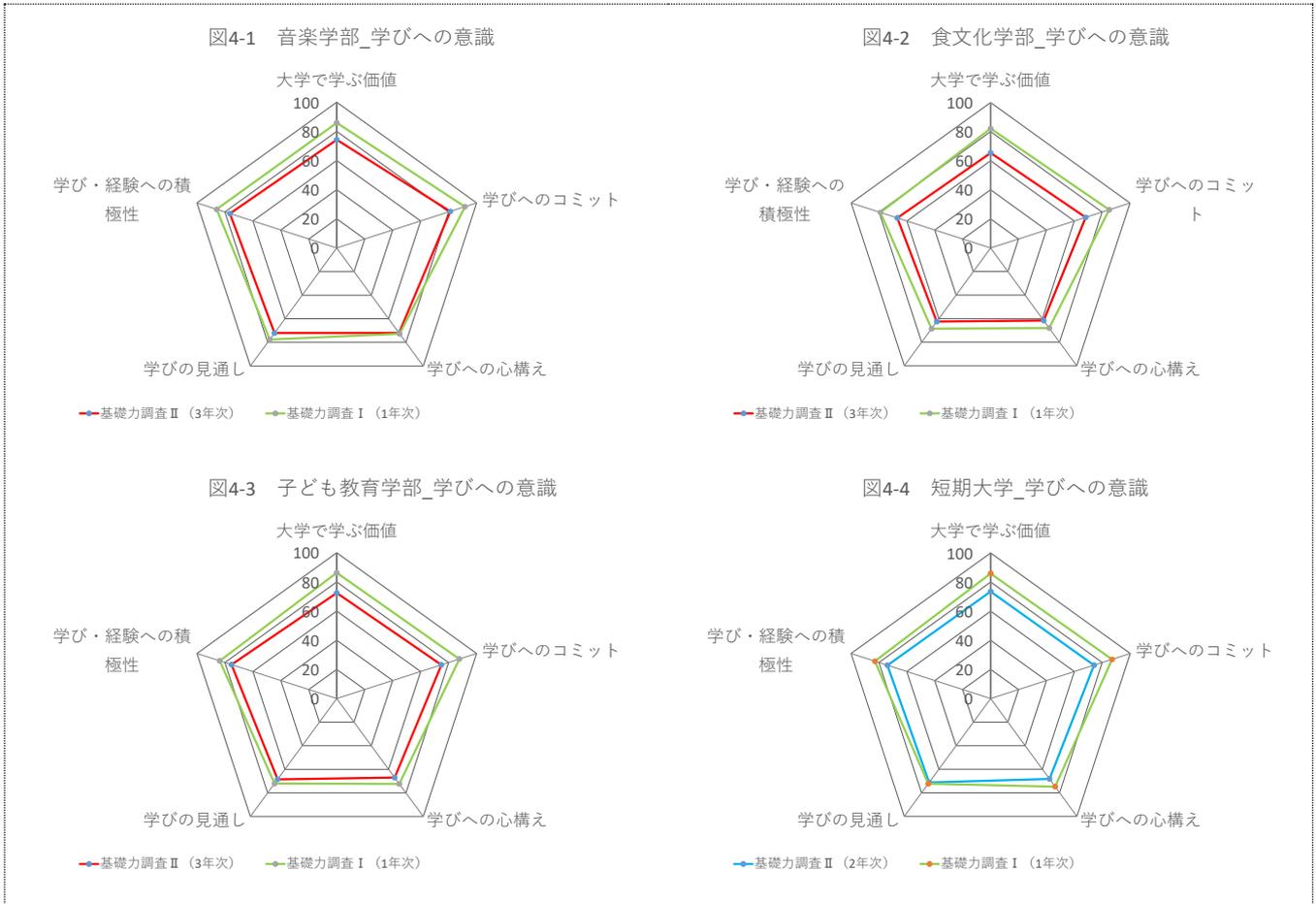
表 4.1 学びへの意識 (部局ごとの達成率)

		受検者数	大学で学ぶ価値	学びへのコミット	学びへの心構え	学びの見通し	学び・経験への積極性
音楽学部	基礎力調査 II (3 年次)	23	74.3	81.2	72.1	72.1	76.4
	基礎力調査 I (1 年次)	31	85.9	91.7	72.7	77.6	85.9
食文化学部	基礎力調査 II (3 年次)	130	65.4	68.2	61.6	62.5	66.9
	基礎力調査 I (1 年次)	147	82.1	85.1	68	68.5	79
子ども教育学部	基礎力調査 II (3 年次)	113	72.4	74.8	67	68.5	75.3
	基礎力調査 I (1 年次)	137	86.3	87.7	72.4	72	83.7

短期大学	基礎力調査Ⅱ（2年次）	38	73.5	74.1	68.2	71.2	73.9
	基礎力調査Ⅰ（1年次）	52	85.9	87	74.8	72.3	82.9

(注) 音楽学部、食文化学部、子ども教育学部については2017年度入学生を対象とした調査結果、短期大学については2018年度入学生を対象とした調査結果である。

図 4.1 学びへの意識（部局内での各項目に関する達成率を示したレーダーチャート）



本学学生の学びへの意識に関する達成率を「基礎力調査Ⅰ（1年次）」と「基礎力調査Ⅱ（3年次）」で経年比較すると、すべての項目に関して下降していた。また、「基礎力調査Ⅱ」に基づいて部局間で比較すると、いずれの項目においても食文化学部学生の達成率が低く、他部局学生の達成率よりも5ポイント以上低かった。以上の2点に関しては留意する必要がある。

(8) 学びへの意識について（表 4.2、図 4.2—1~4） **年度比較（入学時）**

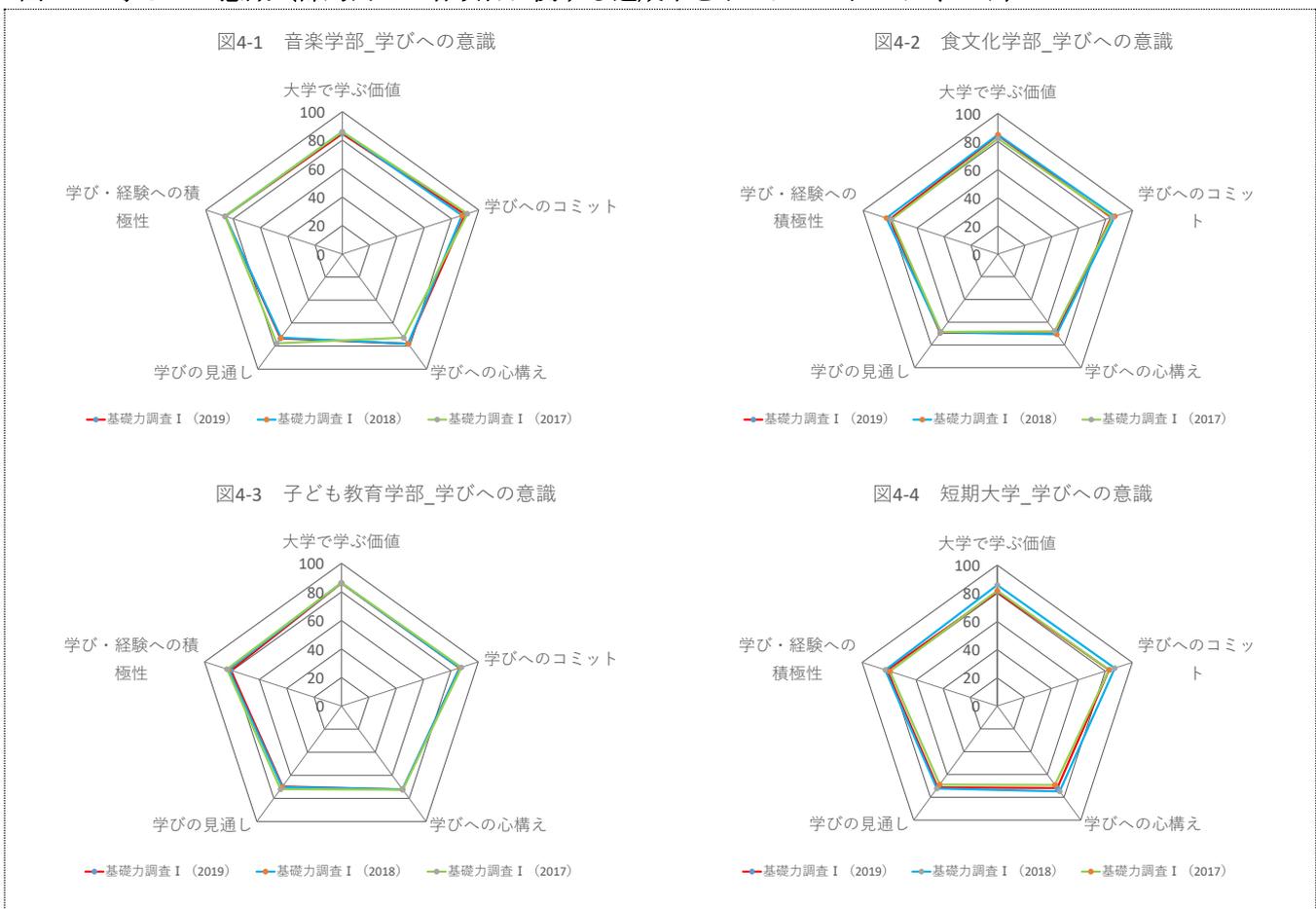
学びへの意識については、「大学で学ぶ価値」、「学びへのコミット」、「学びへの心構え」、「学びの見通し」及び「学び・経験への積極性」という5項目に関する部局ごとの達成率と部局内での各項目に関する達成率を、入学年度別に、それぞれ表 4.2 と図 4.2（1~4）のレーダーチャートで示した。

表 4.2 学びへの意識（部局ごとの達成率）

入学時点比較（2017~2019）		受検者数	大学で学ぶ価値	学びへのコミット	学びへの心構え	学びの見通し	学び・経験への積極性
音楽学部	基礎力調査Ⅰ（2019）	48	84.5	89.9	78	73.3	85.9
	基礎力調査Ⅰ（2018）	44	85.8	87.7	78	72.7	85.8
	基礎力調査Ⅰ（2017）	31	85.9	91.7	72.7	77.6	85.9

食文化学部	基礎力調査 I (2019)	134	84.5	84.2	69.9	69.3	80.1
	基礎力調査 I (2018)	136	84.9	86.8	70.6	68.8	82.8
	基礎力調査 I (2017)	147	82.1	85.1	68	68.5	79
子ども教育学部	基礎力調査 I (2019)	123	86.1	86.4	72.3	69.6	80.8
	基礎力調査 I (2018)	142	86.3	86.4	72.1	70.1	82.4
	基礎力調査 I (2017)	137	86.3	87.7	72.4	72	83.7
短期大学	基礎力調査 I (2019)	45	80.9	82.8	71.9	71.3	81.7
	基礎力調査 I (2018)	52	85.9	87	74.8	72.3	82.9
	基礎力調査 I (2017)	59	81.8	82.8	69.1	68.8	79.4

図 4.2 学びへの意識（部局内での各項目に関する達成率を示したレーダーチャート）



本学学生の学びへの意識に対する 5 項目の達成率を 2017 年度、2018 年度及び 2019 年度の「基礎力調査 I」により比較したところ、上記の 5 項目のすべてに関して、短期大学の 2018 年度入学生の達成率が高かった。その他の部局間では入学年度の違いによる達成率の明らかな差異はみられなかった。

(9) 進路に対する意識・行動について (表 5.1、図 5.1-1~4) 成果把握

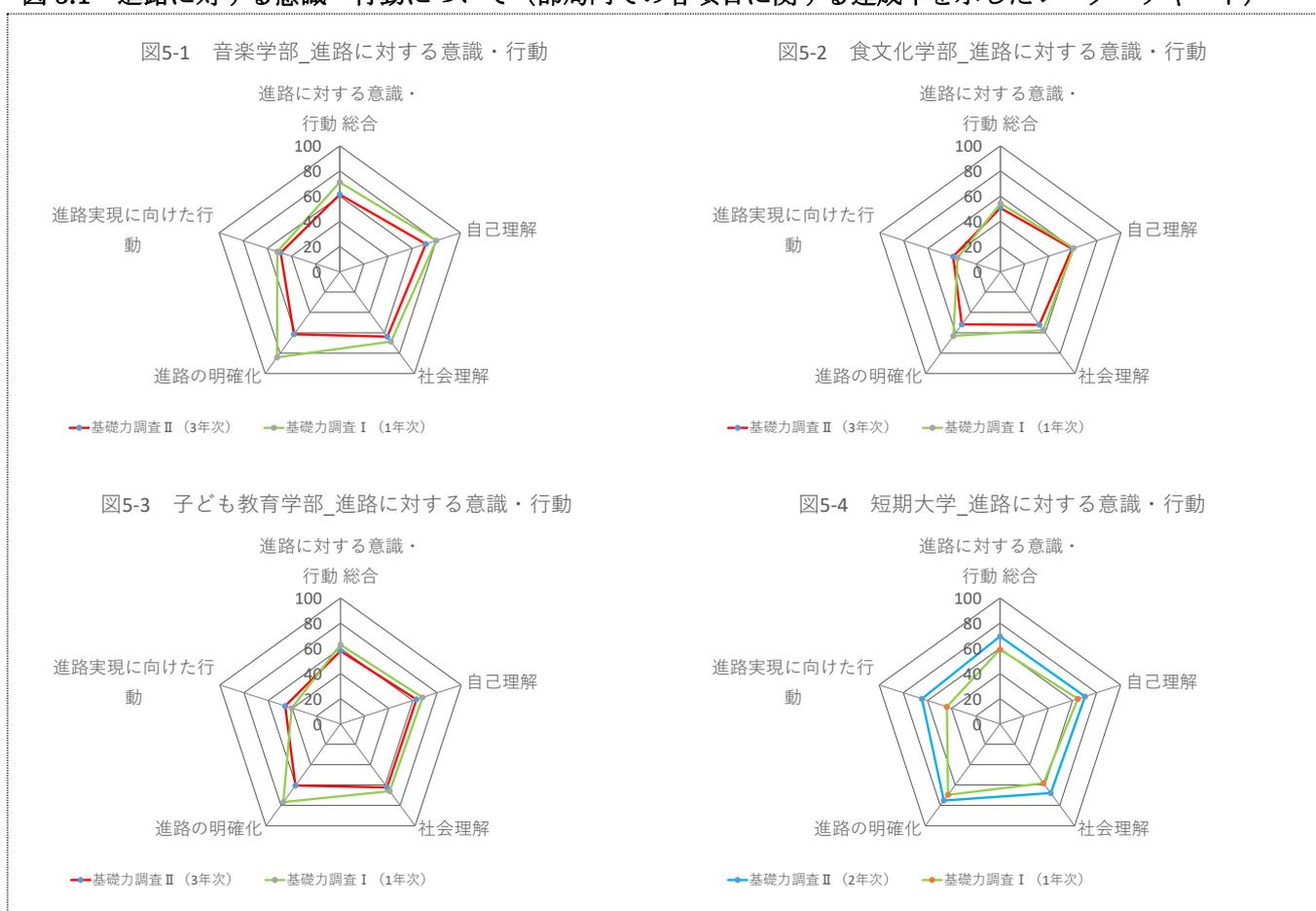
進路に対する意識・行動については、「自己理解」、「社会理解」、「進路の明確化」及び「進路実現に向けた行動」という 4 項目とこれらの項目の「総合」に関する部局ごとの達成率を表 5.1 に、部局内での各項目に関する達成率を図 5.1 (1~4) にレーダーチャートで示した。

表 5.1 進路に対する意識・行動について（部局ごとの達成率）

		受検者数	進路に対する意識・行動 総合	自己理解	社会理解	進路の明確化	進路実現に向けた 行動
音楽学部	基礎力調査Ⅱ（3年次）	23	61.4	71.3	63.8	61.4	49
	基礎力調査Ⅰ（1年次）	31	71.1	80	68.6	84.1	51.8
食文化学部	基礎力調査Ⅱ（3年次）	130	50.6	59.4	52.1	51.7	39.2
	基礎力調査Ⅰ（1年次）	147	54.2	60.7	57.4	63.1	35.5
子ども教育学部	基礎力調査Ⅱ（3年次）	113	57.9	62.9	62.4	60.5	45.9
	基礎力調査Ⅰ（1年次）	137	62.9	68	66	76.8	40.5
短期大学	基礎力調査Ⅱ（2年次）	38	69.5	70.4	67.9	75.2	64.6
	基礎力調査Ⅰ（1年次）	52	59.1	64.5	58.2	69.6	44

（注）音楽学部、食文化学部、子ども教育学部については平成 28（2016）年度入学生を対象とした調査結果、短期大学については平成 29（2017）年度入学生を対象とした調査結果である。

図 5.1 進路に対する意識・行動について（部局内での各項目に関する達成率を示したレーダーチャート）



本学学生の進路に対する意識・行動に関する項目の達成率を「基礎力調査Ⅰ（1年次）」と「基礎力調査Ⅱ（3年次）」で経年比較すると、「自己理解」、「社会理解」及び「進路の明確化」に関しては下降しており、これらの総和として、「総合」においても下降していた。このうち「進路の明確化」に関する達成率はいずれの学部においても 10 ポイント以上下降していた。一方で、「進路実現に向けた行動」に関しては 3 年次において上昇傾向がみられる。また、短大学生の達成率はすべての項目において上昇しており、特に「進路実現に向けた行動」に関しては 20 ポイント近く上昇していた。これは、調査対象の短大 2 年生がすでに就職活動に取り組んでいたことに起因すると思われる。

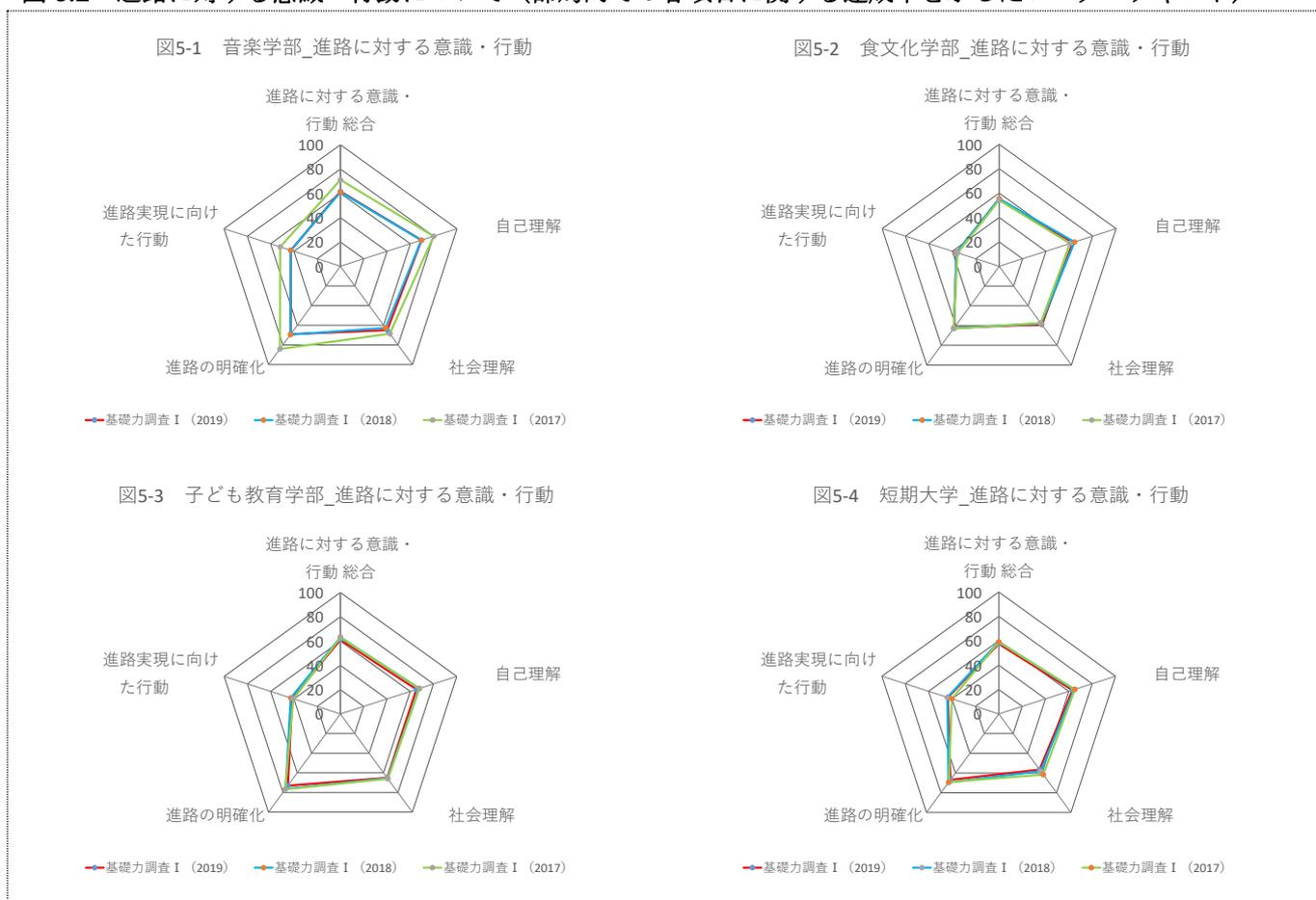
(10) 進路に対する意識・行動について (表 5.2、図 5.2-1~4) 年度比較 (入学時)

進路に対する意識・行動については、「自己理解」、「社会理解」、「進路の明確化」及び「進路実現に向けた行動」という4項目とこれらの項目の「総合」に関する部局ごとの達成率と部局内での各項目に関する達成率を、入学年度別に、それぞれ表 5.2 と図 5.2 (1~4) のレーダーチャートで示した。

表 5.2 進路に対する意識・行動について (部局ごとの達成率)

入学時点比較 (2017~2019)		受験者数	進路に対する意識・行動 総合	自己理解	社会理解	進路の明確化	進路実現に向けた行動
音楽学部	基礎力調査 I (2019)	48	61.6	69.6	65	69	42.6
	基礎力調査 I (2018)	44	61	69.4	62.6	69.4	42.7
	基礎力調査 I (2017)	31	71.1	80	68.6	84.1	51.8
食文化学部	基礎力調査 I (2019)	134	55.2	63	58.9	62.4	36.5
	基礎力調査 I (2018)	136	55.4	64.5	57.9	62.7	36.4
	基礎力調査 I (2017)	147	54.2	60.7	57.4	63.1	35.5
子ども教育学部	基礎力調査 I (2019)	123	61.2	65.3	65.1	73.1	41.3
	基礎力調査 I (2018)	142	63.1	67.7	65.6	76.2	42.7
	基礎力調査 I (2017)	137	62.9	68	66	76.8	40.5
短期大学	基礎力調査 I (2019)	45	57.5	63.1	56.5	66.9	43.5
	基礎力調査 I (2018)	52	59.1	64.5	58.2	69.6	44
	基礎力調査 I (2017)	59	59	65.2	61.6	69.1	40.1

図 5.2 進路に対する意識・行動について (部局内での各項目に関する達成率を示したレーダーチャート)



本学学生の進路に対する意識・行動についての達成率を2017年度、2018年度及び2019年度の「基礎力調査 I」により比較したところ、上記の5項目のすべてに関して、音楽学部の2017年度入学生の達成率が

高かった。その他の部局では入学年度の違いによる達成率の明らかな差異はみられなかった。

一方、部局間での達成率を比較すると、食文化学部「総合」においては、いずれの年度の達成率も他部局の達成率に比して低かった。

以上